

注意欠如・多動症(ADHD)について

今回は日本小児科学会専門医の渡部承平先生に
「注意欠如・多動症(ADHD)」について伺いました。



▲渡部 承平 医師

とから逃げる、人の話を聞けないなどの特徴が見られることもあります。就学時期に診断することが多いのですが、未診断の時期からケアしておく必要があります。

ADHDのお子さん
は実はとても繊細です。強く叱られたり、乱暴な扱いを受けたりすると、過剰に落ち込んだり、逆上したりすることがあります。結果として自尊心を損ねてしまいがちです。

場所を用意するなどの工夫が必要で、そのため
に家族の理解や学校・幼稚園・保育所や支援者などの協力も欠かせません。環境整備はその子に関わる全ての場所です。

それでもなかなか行動がコントロールできず、本人や周囲の人に危険が及ぶ場合、社会生活をうまく運べない場合、学びの機会を損なう場合などにはお薬による治療を選択することも可能です。

感情的な叱り方をせず

解りやすく指示を伝えたり、小さな達成と一緒に喜んだり、気が散らない

丁寧につき合ってもらえ

ず、こじらせて2次障害を起こしてしまうお子さんがいることも確かです。皆で協力し、そうしたお子さんを1人でも減らせたらと思っていま

す。気になる方はお声がけください。

大事な場面で座ってられないかったり、道路に飛び出してしまったりするお子さんがいらつしやいませんか。

もしかしたら注意欠如・多動症(ADHD)の特徴を持っているかもしれません。他にも、待てない、喋りすぎる、物の管理が苦手、嫌なこ

社会福祉法人 済生会今治病院



今治市喜田村7丁目1-6 <https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

☎0898-47-2500

